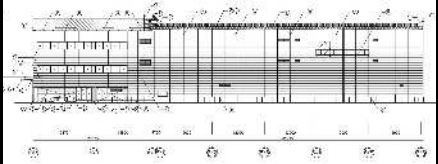


# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社シード鴻巣研究所4	階数	地上3F
建設地	埼玉県鴻巣市	構造	S造
用途地域	工業地域、法第22条指定地区	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,500時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年10月10日
敷地面積	17,980 m <sup>2</sup>	作成者	前田建設工業株式会社
建築面積	5,408 m <sup>2</sup>	確認日	2024年10月10日
延床面積	14,800 m <sup>2</sup>	確認者	前田建設工業株式会社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	86%
③上記+②以外の	86%
④上記+	86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
敷地内に同社の研究所や倉庫の既存棟が複数あり、本計画は既存の研究所-新倉庫棟の増築計画である。工場エリアと事務所エリアに分かれており、それぞれ空間のゆとり配慮された計画である。	
<b>Q1 室内環境</b> ・事務室内には床と天井に吸音材を採用し、吸音性に配慮している。 ・全館禁煙で非喫煙者が煙に曝されないような対策が取られている。	<b>Q2 サービス性能</b> ・事務エリアには休憩室と自販機が設置されており、リフレッシュスペースが確保されている。 ・階高は3.9m以上確保されており、空間のゆとり配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> ・LEDを採用し省エネルギー化に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水型機器を採用し節水に配慮している。 ・機械式継手やBCPを採用し、材料使用量の削減に配慮している。
	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・生物多様性に配慮した植栽を選定している。 ・既存の植栽を保存した緑化計画としている。
	<b>LR3 敷地外環境</b> ・ライフサイクルCO <sub>2</sub> に配慮している。 ・光害に配慮した外構計画としている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称)株式会社シード薄葉研究所4号棟新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.32</b>		-				<b>2.6</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.7</b>	0.15		-				<b>2.7</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40		-				
1.2 遮音		<b>1.8</b>	0.40		-				
1 開口部遮音性能		1.0	0.60		-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40		-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-				
1.3 吸音	床:タイルカーペット、天井・岩綿吸音板	<b>4.0</b>	0.20		-				
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.0</b>	0.35		-				<b>2.0</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50		-				
1 室温		3.0	0.38		-				
2 外皮性能		3.0	0.25		-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20		-				
2.3 空調方式		1.0	0.30		-				
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.6</b>	0.25		-				<b>2.6</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30		-				
1 昼光率		1.0	0.60		-				
2 方位別開口			-		-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40		-				
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30		-				
1 昼光制御		3.0	1.00		-				
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15		-				
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25		-				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.4</b>	0.25		-				<b>3.4</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50		-				
1 化学汚染物質		3.0	1.00		-				
4.2 換気		<b>3.6</b>	0.30		-				
1 換気量		3.0	0.33		-				
2 自然換気性能		3.0	0.33		-				
3 取り入れ外気への配慮	給気は各種排気と異なる方向に配置	5.0	0.33		-				
4.3 運用管理		<b>4.0</b>	0.20		-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50		-				
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50		-				
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>		-				<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.7</b>	0.40		-				<b>2.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>1.3</b>	0.40		-				
1 広さ・収納性		1.0	0.33		-				
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33		-				
3 バリアフリー計画		1.0	0.33		-				
1.2 心理性・快適性		<b>4.0</b>	0.30		-				
1 広さ感・景観	天井高2.7m	4.0	0.33		-				
2 リフレッシュスペース	休憩室と自販機を設置	5.0	0.33		-				
3 内装計画		3.0	0.33		-				
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した設計	4.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.30		-				<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.1</b>	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	壁・天井にクリーンクロスを採用	4.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房排気にガルバニウム鋼板を採用	5.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
2.4 信頼性		<b>3.0</b>	0.20		-				
1 空調・換気設備	空調の熱源種を分散	4.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20		-				
3 電気設備		3.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高3.9m以上		5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	空間の形状・自由さに配慮		4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>	床の積載荷重は4500N/m <sup>2</sup> 以上		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.38	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>3.1</b>	0.20	-	-	<b>3.1</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = 0.76		<b>3.4</b>	0.50	-	-	<b>3.4</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
1.1 節水	節水型機器を採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.3</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	機械排水を洗浄水利用		4.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.5</b>	0.60	-	-	<b>3.5</b>
2.1 材料使用量の削減	機械式継手等を採用		5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	再利用可能なOAフロアを採用		5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP<0.01、1<GWP<50発泡剤を用いた断熱材を使用		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	ライフサイクルCO <sub>2</sub> の排出量に配慮		<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害に配慮		5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)株式会社シード鴻巣研究	BEE	1.1	BEEランク	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア	緑の保全・創出のスコア				
3.5	+	3.0	=	6.5	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上		すばらしい 8.0以上	
					

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.5
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.5
<配慮した内容を記述>			
・LED照明の採用			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
・既存樹木の保存 ・生物多様性に配慮した植栽の選定			

: 入力欄